

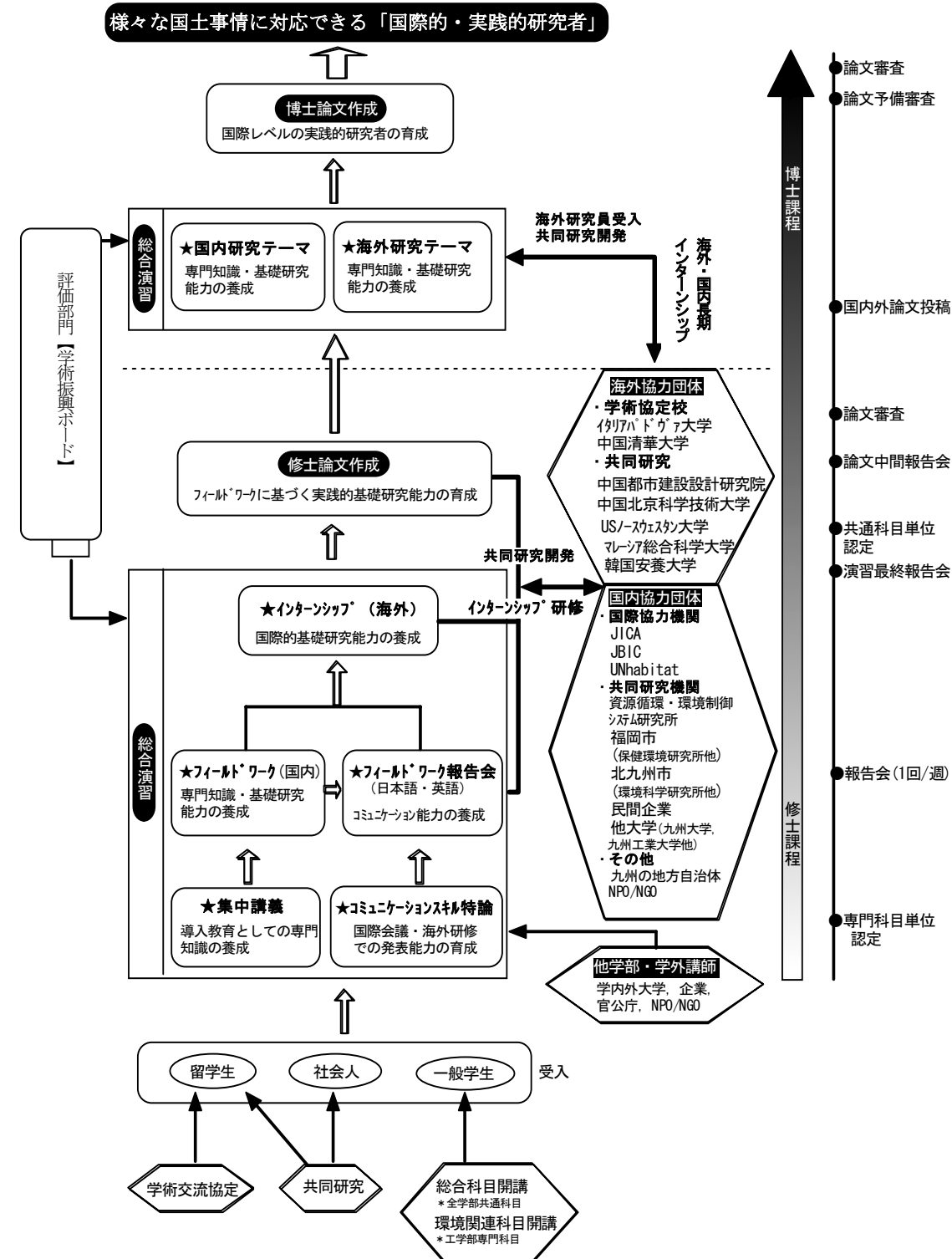
平成18年度「魅力ある大学院教育」イニシアティブ 教育プログラム及び審査結果の概要

◇「1.申請分野(系)」～「6.履修プロセスの概念図」:大学からの計画調書(平成18年4月現在)を抜粋

機 関 名	福岡大学	整理番号	e019
1. 申請分野(系)	理工農系		
2. 教育プログラムの名称	「資源循環総合演習」による実践的環境教育		
3. 関連研究分野(分科) (細目・キーワード)	主なものを左から順番に記入(3つ以内) 環境学、土木工学、複合化学		
	主なものを左から順番に記入(5つ以内) 環境技術、土木環境システム、廃棄物管理、リサイクル技術、触媒工学		
4. 研究科・専攻名 及び研究科長名 (<input type="checkbox"/> 書きで講座名を記入、 複数の専攻で申請する場合は、 全ての研究科専攻を記入)	(主たる研究科・専攻名) 工学研究科：資源循環・環境工学専攻 [修士課程] エネルギー・環境システム工学専攻 [博士後期課程]	研究科長(取組代表者)の氏名 首藤 公昭	
	(その他関連する研究科・専攻名)		
5. 本事業の全体像(わかりやすく、具体的に記入してください。)			
5-(1) 本事業の大学全体としての位置付け(教育研究活動の充実を図るための支援・措置について)			
<p>福岡大学における廃棄物研究は、「準好気性埋立」技術の開発によって日本のみならず世界でも最先端に位置づけられており、1999年文科省学術フロンティア事業として採択された。これを契機に循環型社会形成と環境工学に関する高等技術者の育成を図るために、下部組織のない『文理融合型大学院』として『資源循環・環境工学専攻(修士課程)』を2002年に設立した。そして本研究科においては、博士後期課程の指導を行うため、修士課程の6専攻ごとに後期課程の専攻を設けるのではなく2つに統合しており、今まであった『エネルギー・環境システム工学専攻(博士後期課程)』内に『資源循環システム工学専攻』を2004年度に設置し、本専攻の修了者及び社会人を中心として後期課程を教育している。申請する本事業は、本学の「平成17年度事業計画」で謳った「高度専門職業人の養成と社会人の再教育を主軸とした魅力ある大学院の展開」「優秀な留学生受入れを推進」に合致した事業として高く評価しており、地域に根ざした新しいタイプの大学院の充実に貢献できるものと考え、人的・資金的な支援措置を5年間重点的に実施することを決定している。</p>			

機 関 名	福岡大学	整理番号	e019
5-(2) これまでの教育研究活動の状況(これまでの改善点と、今後の課題について)			
<p>高度な研究者及び実務者を育成するために、世界を見据えた教育方針と画期的なカリキュラムとして、「負」の遺産を「正」の遺産に転換する手法と環境問題を未然に防止する社会システム等を学習することを目的として、九州を中心とした問題の発生地や修復施設の視察と成果発表及びそれらに関する集中講義からなる「総合演習」を実施している。しかし、福岡市・北九州市はアジア・西欧への玄関口として国際的に開かれた地域であり、「循環型社会」を構築するためには国内だけの「地域環境」のみならず海外を含めた広域的な視点での「総合演習」の開講が必要になっている。本専攻は、学術協定校との共同研究、国際協力機関との連携による技術協力・研修教育等々の実績を有している利点を活かし、これまでの総合演習を発展・拡充させ、これら諸外国との交流を大学院生に拡充する国際連携型の「広域的な総合演習」を目指している。</p>			
5-(3) 魅力ある大学院教育への取組・計画(5-(2)を踏まえた大学院教育の実質化(教育の課程の組織的展開の強化)のための具体的な教育取組及び意欲的・独創的な教育プログラムへの発展的展開のための計画について)			
<p>九州地域は、水俣病、カネミ油症、大気汚染、炭塵肺等々、20 世紀の代表的な公害病を経験した世界屈指の地域であり、公害アイランドともいえる。そして、数多くの苦汁を経験した後、環境立県へ脱皮しつつある地域でもある。こうした中で、アジアの玄関口として数多くの国際協力を実施すると共に3ヶ所のエコタウンの設置によって、数々の環境産業の創設を目指し、国内外の研究者や技術者を育成しつつある。ここには、環境問題解決のための体験から生まれた重要な人材が集積されており、これらを継承発展するためには、系統的な教育・研究者を育成する拠点が必要である。</p>			
<p>本教育プログラムは、実践的研究者の育成を目的として上記の既設の環境産業の諸施設や地域活動の場における体験学習を中心に行ってきた。過去5年間、1年毎の改善を行いながら実施してきた結果、本学のアドバイザー・コミッティーのみならず関連機関からも一定の評価を受けている。国内におけるプログラムの内容はこれまでの「公害アイランドからの発信」をキーワードとした内容を基本的に踏襲すると共に、新規プログラムとして国際的研究者の育成を目的に修士課程における海外インターンシップ及び博士課程における長期インターンシップを実施する。これに基づき、学術協定校を中心として資源循環・環境工学分野における共通教材の開発も行う。また、九州各県並びに海外研修時を利用して、産学官のワークショップ及びオンサイトトレーニングの実施も計画している。本研究プログラム申請者は基礎研究のみならず応用的な実践経験を有し、これまでも、各種プロジェクトのメインオーガナイザーや講師の経験を有している。また、文部科学省の拠点大学交流事業や JICA の廃棄物分野の研修先の拠点校にもなっており、国内外の実践的環境教育における幅広いキャパシティイノベーションへの貢献が期待できる。</p>			

6. 履修プロセスの概念図(履修指導及び研究指導のプロセスについて全体像と特徴がわかるように図示してください。)



機 関 名	福岡大学	整理番号	e019
<p>< 審査結果の概要及び採択理由 ></p> <p>「魅力ある大学院教育」イニシアティブは、現代社会の新たなニーズに応えられる創造性豊かな若手研究者の養成機能の強化を図るため、大学院における意欲的かつ独創的な研究者養成に関する教育取組に対し重点的な支援を行うことにより、大学院教育の実質化(教育の課程の組織的な展開の強化)を推進することを目的としています。</p> <p>本事業の趣旨に照らし、</p> <p>①大学院教育の実質化のための具体的な教育取組の方策が確立又は今後展開されることが期待できるものとなっているか</p> <p>②意欲的・独創的な教育プログラムへの発展的展開のための計画となっているか</p> <p>の2つの視点に基づき審査を行った結果、当該教育プログラムに係る所見は、大学院教育の実質化のための各項目の方策が優れており、期待できるとともに、教育プログラムが事業の趣旨に適合しており、その実現性も高く、一定の成果と今後の展開も期待できると判断され、採択となりました。</p> <p>なお、特に優れた点、改善を要する点等については、以下の点があげられます。</p> <p>[特に優れた点、改善を要する点等]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福岡大学の公害問題に対する地域的バックグラウンドや、これまでの廃棄物研究等における特徴的な研究実績を活かし、廃棄物を中心とした環境問題・循環型社会生成に活躍する人材の育成を、社会の実態を反映して、文理融合によって取り組もうとする意欲的な教育プログラムである。 ・また、国内外の関係機関のサポート体制も充実しており、総合演習の実績が九州エリア、アジアで確立している点からも、実現性の高い教育プログラムとして評価できる。 ・教育プログラムの実現に向けて、大学院生の現地体験等の成果を適切に評価するシステム等の構築に向けて、さらなる工夫が望まれる。 			